

三陸の海を放射能から守る

岩手の会 第49号

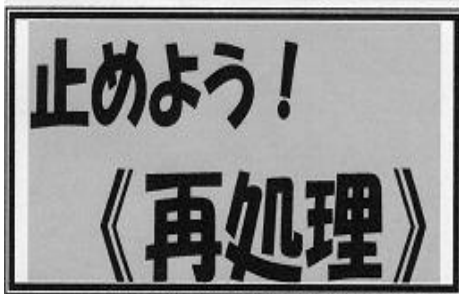
郵便振替 02240-5-102650

《岩手の環境/R I 廃棄物/再処理》

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k\_imag



天恵の海を守ろう!

2008 (平成20)年  
2月 2日

編集事務局 S.Oshida  
TEL・FAX 019-623-1636

# 放射能から海をまもれ!



## 東京日比谷公園で市民集会 1.27(日)



2500人のパレードで訴え

### 多彩な人々が訴え

演壇では各界の多彩な人々が歌やバンドなどを交えながら思い思いにアピールしました。

先ず、こまっちゃやクレズマの演奏があり、続いて、ジャンベの音が鳴り響きました。吉本多香美さんは寒さを吹き飛ばすためにみんなにアフリカダンスを呼びかけ会場を盛り上げました。そして「アースデイで、スト

一月二十七日(日)午後一時から東京日比谷公園野外音楽堂において、「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク主催の集会が開催されました。晴れ渡った冬空の下、全国から消費者・漁業者・サーファー等の市民約二千人が参集し、六ヶ所工場からの海への放射能放出を止めさせ、日本の漁業を守り、次代・次々世代までも巻き込む被害を防ぐと呼びかけました。小音楽堂では、アーススト中心の「NO Nukes More Hearts」をテーマとする共演企画があり六百人の参加がありました。両集会とも、そのままほぼ全員がパレードに参加し東京駅までの約二キロを、一時間半ほどかけて歩き、アピールしました。

ップ六ヶ所を訴えたら九州電力がスポンサーのTV番組の出演をキャンセルされた」と報告。『アシードジャパン』が登壇し「ケイタイアクション」を呼びかけ、さらに最近刊行の『ロツカシヨ』(講談社)の編集の中心となつた音楽家のSUGIZOさんと谷崎テトラさんの対談がありました。テ

トラさんは「反対とか、イヤだというばかりではなく、こんな未来がいいんじゃないかというポジティブなイメージを発信してゆきたい。日本はこの一年で変わってきた、すてきなことが起こりつつある」と述べました。歌手のサンプラザ中野くんは『RUNNER』を歌いました。

### 国会議員三人が登場

東京選挙区の国会議員

大河原雅子、保坂展人、川田龍平の三議員が駆けつけ「岩手のワカメはおいしい。この海産物を送り続ける三陸現地の声を是非国会で受けとめたい」と語りました。水口憲哉先生は「日本中の人々に知ってほしいので日本地図を掲げて歩きます」と語り、サーフライダーファンデーション・ジャパンの守山倫明代表は「海を大事にすることにより自然と人間の大切なものを取り戻したい」と語りました。

### 岩手からは約九千人参加

岩手からは、生活クラブ岩手から二四人、重茂漁協など五五人、その他約十人が、横断幕や大漁旗をもって参加しました。大漁旗に囲まれて登壇した重茂漁協の伊藤隆一組合長は「もしも再処理工場が安全ならば東京のど真ん中に作って排水は隅田川に流せばよい。田舎は命の源。食の原点。三陸の海を大切にしたい。」と訴えました。

最後に登壇した生活クラブ生協の加藤好一会長は、全国ネットと重茂漁協、サーフライダーションの署名が「八十万筆を数えた」と報告し締め括りました。(取材・尚)

# 81万973筆の署名

消費者7団体ネット 37万9469筆  
 重茂など岩手6漁協 39万9524筆  
 サーフライダーファウンデーション 3万1980筆  
 《署名運動賛同 合計620団体・個人》



## 参議院院内集会で政府担当者に提出

### 国会議員・秘書二十余人も出席

八月以来日本消費者連盟等七消費団体と重茂漁協など岩手県の六漁協、さらにはサーフライダーファウンデーションジャパンの取り組んだ「再処理工場本格稼働阻止」の署名は総計で八二万筆を超えました。一月二八日(月)参議院議員会館会議室に約二〇〇人が集まり、国会議員・秘書二十余人が立ち会う中で政府担当者へ、正面に高く積み上げられた署名簿の束が提出されました。

### 二百人結集の熱気

十二時半からの会場に出席した市民は受けつけ通行証から約一八五人と推定されます。国会議員の出席は集会の設定を行った大河原雅子議員の外に一人、秘書の出席が十人と推測されました。

政府側からは内閣府原子力安全委員会事務局審査指針課池田英貴課長補佐の他、経産省、農水省、環境省の該当部署から十人余が出席しました。さらに報道関係も含めて大人数となり、廊下にあふれる人々も出て熱気あふれる集会となりました。内閣総理大臣宛署名簿は、提出に当たっての三人の代表からの挨拶の後内閣府池田課長補佐に手渡され、経産大臣宛の署

名簿は同省金城慎司課長補佐へ手渡されました。

### 担当官が回答できなかった数々の問題点

前もって質問書が提示されていたのですが、政府担当者の回答説明は残念ながらいつもの「0・022ミシーベルトで安全」のくり返しでした。

しかし多くの国会議員が出席した中で、再処理工場の垂れ流しの放射能廃液は陸奥湾の水でも薄まらない濃さであり三陸の漁業を壊滅させかねないこと、活断層の存在が無視され耐震性が不備なこと、「0・022の数値」はどこで測ったのか答えられなかったこと、「原子力防災指針」の事故時食品摂取制限の非現実性、昨年出された耐震新基準による「バックチェック」が不備のままの稼働はあ

り得ないこと・などなど具体的な問題点が指摘されました。

### 国会は早急に放射能汚染防止法の整備を

「岩手の会」の永田文夫氏からは、「環境基本法十三条」には放射能による環境汚染防止があるが、「原子力基本法」には、この条項を具現化する条文がない。したがって、経産省には該当委員会もなく、環境省も放射能規制にはタッチ出来ない現状にある」とする発言があり、再処理廃液を野放しにしないために、国会が早急に法律を制定すべきと指摘しました。参加した国会議員への期待が高まる集会の論議でした。集会は二時四十分を終了しました。(取材・尚)

### 短針

#### 岩手日報への意見広告

一五〇万円集まる

『子どもと海と空の会』が幹事団体となり募金を募った「再処理工場の放射能放出」についての意見広告は一月二七日期刊に載りました。募金は予定の百万円を大幅に超え、五十万の剰余が出ました。

### 「放射能海洋放出規制法(仮称)」の制定 国会・省庁要請行動

表記の法制定について岩手の一四市町村議会から意見書が国に提出されている事を受けて二八日午後二時半から、三陸の海を守る会田村剛一会長ら七人は、藤原良信参議院議員(比例区・岩手)の付き添いで、国会と内閣府など八箇所をまわり要請行動を行いました。水産庁山田修路長官、参議院江田五月議長には直接面会出来ました。



江田議長と共に(海の絵の飾られた参議院議長室で)

募金事務局では、この剰余金でさらに、岩手・青森の他の新聞にも「意見広告」を掲載する事を検討しています。